

都市部のウォーターフロントにおける飲食店の夜景演出に関する研究

—「東京夜景」に掲載される夜景写真の魅力的特徴—

A Study on the Nightscape of Restaurant in Urban Waterfront

-The characteristics of beautiful nightscape in “Tokyo Yakei” guidebook-

○稲葉諒介¹, 横内憲久², 岡田智秀²*Ryousuke Inaba¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada²

Abstract: This study is to clarify the nightscape characteristics of location and proportion by “Tokyo Yakei” guidebook. As a result, nightscape view seen from every Restaurant was able to classified five types; 1) carving shore line, 2) bridge type, 3) opposite shore emphasis type, 4) coastline emphasis type, 5) closed water surface line.

1. 研究目的—わが国の夜景に対する関心の高まりは、1980年代のバブル期に現出した都市部のウォーターフロント（以下、WF）開発の完成を契機として、都市の24時間化や、アフターファイブにおける余暇時間の増大などが理由とされている¹⁾。特に、飲食店から望む夜景は、店舗の内装や窓の開口部、階高などにより様々な演出が可能なることから、WF夜景の付加価値を高め、店舗自体の質の向上にも繋がると考えられる。

そこで、本研究では現代のWF夜景が注目される契機となった都市部のWFにおいて、夜景鑑賞スポットとして評価されている飲食店を対象に、そこから眺められる夜景の構図や店舗立地特性などから、飲食店における夜景演出の魅力的特徴について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法—本研究の分析対象は、丸々もとお著の「東京夜景」全4巻のうち、飲食店が特集されている第3巻（1996年発行）²⁾および第4巻（1997年発行）¹⁾（以降、『東京夜景』）とする。本書は、この著者が構築しようとする「夜景観光学」と、長年収集してきた夜景の優れた飲食店の情報をまとめたもので、飲食店から眺める夜景の特徴を詳述している。特に、現在も営業が続く分析対象店舗は、「東京夜景」第4巻の初版が1997年であることをふまえると、その店舗の営業年数は少なくとも18年以上に及ぶことになる。したがって本書の分析は、こうした長期に渡って来店客を魅了させてきた飲食店の夜景演出の特徴が捉えられる点で意義があると考えられる。

そこで本稿では、『東京夜景』に掲載される全156店舗において、現在も営業を継続している飲食店から撮影された、水面を含むWF夜景の写真全22枚（全17店舗）を分析対象とした。これらについて、夜景の構図の共通性について分類した結果、図1に示す全5型を得た。これら型ごとに各店舗の「立地特性」や「眺望

特性」（視距離、俯角等）および「営業特性」を示したものが表1である。以降ではこれらの特徴を図1と表1をもとに型ごとに述べていく。

3. 結果および考察

a. 湾入型—全17店舗のうち最も多い6店舗が該当するこの型（図1a, 表1 No. 1~6）は、全店舗の共通点として左半分に様々な色彩で広がる陸域と、右半分に暗黒の海面を有することで、構図中心部の湾入地形を明瞭に浮かび上がらせる特徴がある。これについて「4）水際線距離」をみると100m~200mに対象店舗が位置し、これにより湾入形状を形作る陸域と水面の両者が同時に眺められる店舗立地特性をもつ。また、「6）視対象の俯角」をみると、3°~4°という一般的に言われる俯角遠景域³⁾に水際線があり、これにより湾入地形の視線誘導効果により奥行き方向に夜景鑑賞者の意識が向けられる特性を有するものと考えられる。これら「7）価格帯」をみると、Cランク（5000円未満）が中心であり、相対的に低価格という特徴がみられる。

b. 橋梁中心型—5店舗が該当するこの型（図1b, 表1 No. 7~11）は大きく2タイプがみられる。①水平線上に橋梁がみられ、闇となる空と水面を背景に橋梁のみが浮かび上がるもの（表1 No. 7, 8）、②街越しに橋梁を眺め、街灯かりが広がるその領域を強調するように、街の地平線上に橋が存在するもの（表1 No. 9, 10）がある。「4）水際線距離」について①（表1 No. 7, 8）をみると10m以下と水際線に極めて近い立地にあり、これにより眼前に広がる暗黒の空や海を介して、煌びやかな橋梁が明瞭に視認できる状態である。同様に②（表1 No. 9, 10）の「4）水際線距離」をみると、1000m~4000mと全店舗の中で最も水際線から遠い立地にあり、これは眼下に広がる中間領域の街灯かりを俯瞰するためと考えられる。さらに全体の特徴をみると、「6）視対象

1：日大理工・院（前）・不動産 2：日大理工・教員・まち

構図	a.湾入型	b.橋梁中心型	c.対岸強調型	d.海岸線強調型	e.水面一体型
定義	左側に陸域、右側に海面を有することにより、中央の湾入地形が強調される構図	眼前に水面や街並みを有し、地平線上や水平線上に橋梁が位置することで領域感が強調される構図	水面越しに対岸の高層ビル群が眺められ、飲食店の客席と対岸が一体的に捉えられる構図	船舶群や高層ビル群により海岸線が縦一文字や横一文字に強調される構図	飲食店が水際線に接しているため、飲食店と水面が一体となった構図
該当写真例(一部掲載)	 No. 3 横浜クルーズ・クルーズ	 No. 9 レインボー(2)	 No. 12 MEULSAULT	 No. 18 シリウス(1)	 No. 21 T.Y. ハーバーブルワリー(2)

図 1 構図の定義および該当写真例

表 1 夜景の構図ごとの分析結果一覧

構図タイプ	No.	店名*	立地特性				眺望特性		営業特性		備考
			1)所在地	2)建築物の用途	3)階高(階)	4)水際線距離(m)	5)視対象までの距離(m)	6)視対象の俯角	7)価格帯**2	8)営業状況	
a.湾入型	1	エフタイド(1)	静岡県熱海市和田浜南町 10-1	ホテル	18	140	1100	3.1°	C	○	※1 分析対象店舗に複数枚 WF 夜景の写真が見られる場合は、1枚目を(1)、2枚目を(2)と記す。
	2	ラ・プラージュ	千葉県千葉市中央区中央港 1	展望施設	32	130	800	7.8°	C	○	
	3	横浜クルーズ・クルーズ	神奈川県横浜市西区高島 2-19-12	複合ビル	29	170	1400	4.1°	C	○	
	4	英一番館	神奈川県横浜市中区山下町 3-1	多目的ホール	6	210	400	2.6°	B	○	
	5	レインボー(1)	神奈川県横浜市中区山下町 16	ホテル	7	220	400	3.3°	B	○	
	6	アルページュ&エル・マール(1)	神奈川県横浜市中区花咲町 1-22-2	ホテル	14	380	900	2.9°	C	○	
b.橋梁中心型	7	ピア21(1)	神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1	客船ターミナル	1・2	海上	3300	0.1°	B	○	※2 A: 1万円以上 B: 5000円以上 C: 5000円未満 を要す。 (3000円未満はNo.2のラ・プラージュと、No.13,16の屈辱の2店舗のみとなる)
	8	T.Y.ハーバーブルワリー(1)	東京都品川区東品川 2-1-3	ブルワリーパブ	1	10	100	1.1°	B	○	
	9	レインボー(2)	神奈川県横浜市中区山下町 16	ホテル	7	1130	2100	0.6°	B	○	
	10	トップ・オブ・ヨコハマ	神奈川県横浜市港北区新横浜 3-4	ホテル	42	4180	2100	3.9°	C	○	
	11	レストラン・ルーク	東京都中央区明石町 8-1	複合ビル	47	80	800	11.1°	A	○	
c.対岸強調型	12	MEURSAULT	東京都台東区雷門 2-1-5	カフェ	2・3	10	150	1.3°	C	○	
	13	屈辱(1)	神奈川県横浜市磯子区新杉田町 2	マリナーラウンジ	2	10	20	9.9°	C	○	
	14	エフタイド(2)	静岡県熱海市和田浜南町 10-1	ホテル	18	140	709	4.3°	C	○	
	15	シノア四季	東京都港区台場 2-4-8	テレビ局	24	250	1650	2.8°	C	○	
	16	屈辱(2)	神奈川県横浜市磯子区新杉田町 2	マリナーラウンジ	2	10	200	9.9°	C	○	
d.海岸線強調型	17	アルページュ&エル・マール(2)	神奈川県横浜市中区花咲町 1-22-2	ホテル	14	380	780	3.3°	C	○	
	18	シリウス(1)	神奈川県横浜市西区				670	19.8°	B	○	
	19	シリウス(2)	みなとみらい2-2-1-3	ホテル	70	240	4430	3.1°	A	○	
	20	ピア21(1)	神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1	客船ターミナル	1・2	海上	100	1.7°	B	○	
e.水面一体型	21	T.Y.ハーバーブルワリー(2)	東京都品川区東品川 2-1-3	ブルワリーパブ	1	0	100	1.1°	B	○	
	22	CANAL CAFE	東京都新宿区神楽坂 1-9	カフェ&バー・キュー	3	0	600	0.2°	B	○	

の俯角」は0°~3°と遠景領域³⁾に存在することから、奥行き方向にある橋梁により手前の水面や街並みの領域感が強調される構図といえよう。「7)価格帯」はAランク(1万円以上)が1件、Bランク(5000円以上~1万円未満)が3件と全5型中で最も高い価格帯の特徴を捉えた。

c. 対岸強調型—4店舗が該当するこの型は、対岸の光が映り込む水面越しに、対岸の高層建築群が明瞭に捉えられ、さらに視点場となる客席の様子を含む構図(図1c, 表1 No.12~15)として共通する。「3)階高」と「4)水際線距離」をみると、低層階の店舗は10mと水際線近傍に位置し、中層階の店舗は100m以上の距離をもつ。これは窓越しに眺める夜景において、水面と対岸のみを強調するためであり、特に中層階では店舗の窓枠により、眼下の街並みを不可視領域としている点に特徴を持つ。「7)価格帯」をみると、すべてがCランクという全5型のうち最も低い価格帯であり、いわゆる大衆的な夜景といえそうである。

d. 海岸線強調型—3店舗が該当するこの型(図1d, 表1 No.16~19)は、係留船舶群や高層ビル群により縦一文字に水際線が強調されるもの(表1 No.16~18)と左右に広がる街灯りにより水際線が横一文字に捉えられるもの(表1 No.19)があるが、これらには特に数値的な共通性がみられなかった。また「3)階高」と「7)価格帯」を同時にみると、低層階の店舗ではCランクが、高層階の店舗ではAランクがそれぞれみられるなど、階高と価格帯には一定の関係がみられる。

e. 水面一体型—3店舗が該当するこの型(図1e, 表1 No.20~22)は、店舗と水面との一体感が楽しめる構図である。「4)水際線距離」は、海上や水際線上に店舗が立地するもので、全店舗の中で最も水面と近接している。これらは、店舗自身がフローティング式の構造をもつもの、倉庫をリノベーションしたものなどWFならではの非日常的な空間演出がみられるのが特徴である。その「7)価格帯」をみると水面一体型に該当するすべてにBランクという相対的に高額の価格帯が設定されている。

以上より、『東京夜景』に掲載される写真について、WF 夜景の構図や分析結果の共通性から、飲食店により特徴づけられる全5型を得た。このうち、「a.湾入型」や「c.対岸強調型」では、湾入地形による視線誘導や、店舗の窓枠により視界を制限するなどの、夜景観測者の意識を操作する演出がみられ、「b.橋梁中心型」では、橋梁の存在により水面・街並みの領域感を創出する演出、「e.水面一体型」では店舗自体のWFならではの設えにより、非日常的な空間を演出することで相対的に高い価格帯がみられた。これらの特徴より、およそ20年におよび営業を継続する飲食店からみるWF 夜景には、型ごとに異なる構図や店舗立地の特徴を有していることが明らかとなった。

参考文献

- 丸々もとお:「東京夜景<4>」, 七賢出版, 1997.11.25.
- 丸々もとお:「東京夜景<3>」, 七賢出版, 1996.12.3.
- 柴原修[編]:「景観用語辞典」, pp.44-47, 彰国社, 1998.11.10.